

テーマ

モンゴル襲来の記憶を共有する、 イスラーム世界と日本

適用 分野

東洋史、イスラーム史



研究 名称

中世後期イスラーム世界におけるモンゴル帝国の
衝撃とその影響

氏名 所属

中町信孝 教授
文学部 歴史文化学科

内容

●特徴

13世紀後半に日本列島を襲った「元寇」はよく知られていますが、ユーラシアの西側にあるイスラーム世界もまた、同じ時代にモンゴルの襲来を経験しています。日本とイスラーム世界を比較しながら、モンゴル帝国の影響がそれぞれの地域の歴史にどう作用したのかを考えてみましょう。

●研究内容

13世紀に広大な版図を領有したモンゴル帝国が、日本列島にまで支配を伸ばそうとしていた頃、ユーラシアの西においてモンゴル軍は、イスラーム政権の 맘ルーク朝に敗れ、侵攻を阻まれました。当時、新興勢力であった 맘ルーク朝にとっては、モンゴルと戦い勝利したことが、自らの支配の正統性を高めるのに大きく役立ちました。この時 맘ルーク軍を率いたバイバルスら支配者は、「イスラームの守護者」としての名声を勝ち得、その後250年続く 맘ルーク朝の礎を築くことに成功したのです。

モンゴル軍に対する勝利の記憶は、中世後期イスラーム世界では英雄バイバルスの伝説という形で

語り伝えられます。さらに現代になると、天下分け目の戦いであるアイン・ジャールートの戦いを題材とした小説・映画・ドラマが作られ、いっそう深く大衆の間に浸透していきました。時に戦争に臨んで敵をモンゴルになぞらえた演説をするような為政者も現れたほどです。このことは、戦時中の日本においてモンゴル艦隊を撃退したとされる「神風」を賞賛していたこととも重なります。

モンゴル帝国によって始めて世界が一体化したといわれる13世紀に、ユーラシアの東西ではそれぞれのやり方でモンゴルと対峙し、大きな影響を受けました。イスラーム世界におけるモンゴルの影響を、日本におけるそれと比較することは、世界史の新しい見方に繋がり、現代の国際関係を見つめ直すきっかけともなるでしょう。



モンゴル帝国との戦争を題材とした
アラビア語の小説『おお、イスラームよ』

研究室URL：<http://www.konan-u.ac.jp/faculty/letters/history/zemi/2008/01/index.html>

キーワード

イスラーム史、モンゴル帝国、歴史と記憶

連携方法

■ 講演 □ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 □ コメントート ■ 共同研究